

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-18



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」バーチャルウォーク コーナーに八柳修之さんのバーチャルウォーク（国内版） 歩いて健康バーチャルウォークのすすめ「沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8~10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計してバーチャルコースのゴールに向かう、すごろくのようなもので、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年（平成30年）10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県、岡山県、兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、愛知県、静岡県を経て神奈川県に入り、2019年（令和元年）11月18日現在、藤澤宿（スタートから1595km地点）に到着しました。ここは寅次郎の故郷、しばしの休息を取り、お江戸日本橋に向かいます。

〔藤澤宿～日本橋〕 1595Km～1644Km



写真上左は東海道五十三次広重の浮世絵で藤澤宿の旅籠、写真上右はお馴染みの日本橋です。

寅次郎、生まれ故郷の藤澤宿で長旅の疲れを取り、お江戸に向かって出立です。神奈川県オールジャパン ウォーキングカップ公式大会のよこはまツアーマーチはKWAのよこはまウォーキング協会が主催でKWAの他の協会のスタッフが応援する大会で寅次郎、何回も参加しています。

幕末からの文明開化の地、今では「みなとみらい21」として生まれ変わった横浜が楽しめるウォーキング大会です。

横浜と言えば寅次郎の好物は崎陽軒のシウマイ弁当(860円)です。

気合を入れて参加するウォークのお弁当に買い求めました。何故か海外旅行から日本に帰って来た時の昼食にシウマイ弁当が食べたくなる寅次郎です。



東京都は2000年(平成12年)5月開催の「第5回東京国際スリーデーマーチ」で武蔵野を歩いています。この大会は第一回が1996年(平成8年)ハナミズキを市民の木とする武蔵野市を中心に大会が開催されました。1912年(大正元年)当時の尾崎行雄 東京市長が日米親善の願いを込めてアメリカの首都ワシントンに日本の国花 桜を贈り、その返礼にアメリカ国民最愛の花 ハナミズキが日本国民に贈られ、その80周年を記念して開催されたそうです。

寅次郎、1日目はハナコースで小金井・多摩湖ルート 30km、2日目はミズコースで玉川上水・国分寺ルート 30km、3日目はキコース 井の頭公園・野川ルート 30kmに挑戦しました。寅次郎、57歳の年です。2006年(平成18年)の第11回大会からはスタート・ゴールを三鷹市

から小金井市に移し、ハナミズキルート、サクラルート、ケヤキルートに変更になりました。寅次郎の所属する神奈川県ウォーキング協会がハナミズキルートの運営を担当し、前日から体育館に泊まり込みでした。現在は「ウォーキングフェスタ」の名でツデーになり小金井市で開催されています。

東京都の認定大会は伊豆大島御神火ツデーマーチもあり、F W Aでは第7回大会に横浜大榎橋から船に乗り、団体参加をしています。

映画の寅さん、東京都葛飾区柴又が故郷ですので、映画では毎回故郷に帰ってきて舞台になっていますが、特に東京都を主舞台の作品がありますので紹介します。

1972年（昭和47年）12月公開の第10作「男はつらいよ 寅次郎夢枕」で湯島天神（梅や藤の名所）が舞台です。

柴又に戻り、みんなが自分の悪口を言っているとすねる寅さん、反省して身を固める気になりますが、嫁さがしに失敗、また旅へ。旅先でも渡世人の悲哀を感じ、再会した舎弟の登に「地道に生きろ」と置手紙して柴又へ。

寅さんの部屋には御前様の甥の大学教授が下宿中なので居場所がなく、また旅へ出ようとすると美容院をやっているバツイチの幼馴染お千代坊（八千草薫）に再会。大学教授がお千代坊に恋していると知り寅さん「恋の使者」となります。

湯島天神に連れだして話をしますが、お千代坊、寅さんからのプロポーズと勘違い、「一緒になってもいいわよ」の返事に驚いて、へたり込む寅さんの姿が愉快です。

いつもふられている寅さんなので何とかまとめてあげたかった話なのに・・・山田洋次監督、「ここで作品を終わらせるわけにはいかないのだ」と寅さんの結婚は諦めたようです。



1985年（昭和60年）12月公開の第36作「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」で東京都式根島を訪れています。

裏の印刷会社のタコ社長の娘あけみが結婚生活に疲れて家出。タコ社長、尋ね人でTV出演、下田にいると連絡あり。そこに寅さんが帰ってきて、一肌脱ぐ寅さんです。

下田で会ったあけみの「どこか島に行きたい」との言葉で式根島へ向かいます。船で同窓会のため、島に帰る11名に加わり、「二十四の瞳」とはしゃぐ寅さんです。

島には美人で独身の真知子先生（栗原小巻）が出迎え、寅さんの恋が始まります。人妻のあけみは民宿の二代目に求婚され、



「若者を傷つけた」と寅さんを連れて柴又へ戻ります。ため息の毎日の寅さんの元へ真知子先生が現れ、元気を取り戻しますが、真知子先生から「亡き友人の子持ちからプロポーズされた」と相談されます。自分の胸の内も明かさず賛成して調布飛行場で式根島に戻る真知子先生を見送る寂しそうな寅さんでした。ラストシーンは正月に浜名湖で商売する寅さん、遊覧船の船長になっていた式根島での同窓会の仲間に再会、真知子先生への片想いだった二人で盛り上がります。渡世人稼業の寅さんのやりきれない思い、人妻のあけみの戸惑い、「恋は男も女もつらいよ！」を感じさせる作品です。

次回は **バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー19 (最終回)** です。

平野 寅次郎 拝